

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400120		
法人名	医療法人アンリー・デュナン会		
事業所名	グループホーム 優和の郷・信		
所在地	深川市あけぼの町1番35号		
自己評価作成日	令和元年10月9日	評価結果市町村受理日	令和元年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400120-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節に合わせてホール内の掲示物や写真の展示物を入居者さんと一緒に作成し、イベント・レクリエーションを通じて日々の生活に楽しみを増やし、気分転換できる機会を毎月考えて行っている。入浴は天然温泉を利用したお風呂で豊かなお湯をふんだんに楽しめる。飼い猫の受入れも行っており、入所前と変わらず愛猫と生活できる支援を行っている。リハビリ体操や健康体操で体力作りを行う他に食事の盛り付けや配膳等の生活リハビリを取り入れている。玄関・ホールに置いてある観葉植物やホール内で飼っている金魚で癒しと安らぎ効果を与える他、植物や金魚のお世話をすることでやりがいや意欲の向上に繋げている。入居者さん一人ひとりに役割を持っていただくことでそれぞれの個性を活かし、やりたいことやできることを少しずつ増やして自立した生活が送れるようなケアを心掛けている。みんなが仲良く穏やかに支え合いながら生活できるケアを常に考え、連絡ノートを活用し情報の共有を意識してチーム力向上にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部から車で10分程度の郊外にあり、周辺は田園風景が連なっているが、戸建ての住宅地も近くに広まり、住宅地と田畑が融合した静かな環境下に立地している。母体は同一敷地内の医療法人で、デイサービス事業所も隣接しており、各種のサービスと医療面での信頼が利用者や家族の安心感に繋がっている。建物は平屋で、左右に位置した2つのユニットに計18人の高齢者が生活を共にしている。当事業所の優れた点は、医療面の充実が挙げられ、看護師の施設長のもと訪問看護と24Hのオンコール体制で繋がりが、隣接した病院の即応性も含め、安心できる医療の提供が利用者や家族の信頼を克ち得ている。介護面での一人ひとりへの介護の厚さにも注目したい。施設内のお風呂は温泉を利用しているが、塩分の強弱による利用者の肌荒れ等について、個々人の特性に応じて加水により調整し、その人のための塩度や温度を探るなど個別に徹したサービスを指向しており、その様なきめ細かさが介護の基本となっている。また施設内で介護者は上履きを利用しない、素足の介護を実践するなど、利用者目線での介護を徹底している。職員研修の多き多彩さにも注視しながら、利用者一人ひとりへのサービスの充実を目指している当事業所の今後に、大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に入居者さんのことを想い職員で考えた介護理念であり、法人理念と共に玄関掲示を行うことでいつでも目につくようにしている。名札の裏に介護理念を携帯することで常に意識付けを行っている。	開設以来の介護理念を事業所内に掲げ、利用者や家族、職員等関係者全員に宣明している。また名札の裏にも記載し、常時携帯しながら理念に基づいた介護になるよう、日々臨んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方に運営推進会議へ参加して頂き運営に対し理解協力を得ている。地域で行われる学習会や認知症カフェ等に積極的に参加し、職員が地域の方との交流する機会を増やしている。	地域の町内会や住民との交流は、認知症カフェへの参加や地元での学習会に出席し、教える側として講義をしたり、一住民で参加したり、相互の交流は広まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の受入れを行っており、認知症の方の生活状況や日々の役割を持った暮らし等の説明を行い、認知症への理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	レクやリハビリ、日々の活動状況を写真を使い報告する他に職員の研修の参加状況についても合わせて発表している。ヒヤリハットの報告も行い、頂いた意見やアドバイスを基にサービスの向上に繋げている。	運営推進会議は地域や行政、利用者と家族等の出席を得ながら定期開催し、議案も行事や利用者活動内容に留まらずに、事故やヒヤリハットも公表し開かれた事業所としてサービス向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加し、困難事例の発表を通して参加者から意見やアドバイスを頂きケアに活かしている。会議や研修の参加を通じて地域包括の担当者や他の事業所の方と情報交換を行い、協力関係を築いている。	行政窓口とは、各種申請や制度の解釈・運営について随時指導を受け、また情報交換も密に行い、信頼性の高い関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待防止委員会を設置しており、研修に参加して学んだことを会議で周知情報共有を行っている。夜間以外は玄関の施錠は行わず自由に動ける環境にしている。センサーやナースコール、ミラーを使用し安全確保に取り組み、見守りを重視したケアを行っている。	身体拘束虐待防止委員会の指針を定め、3ヶ月に一度開催し、拘束も抑制もない介護の実施について検討を深めている。職員へは直近の会議で周知徹底し、見守りに力点を置いた介護を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会を設置しており、研修に参加して学んだことを会議で周知情報共有を行っている。入浴や更衣の時に身体観察を行い、皮下出血等の変化があった場合はすぐに報告し、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学ぶ機会を得ている。必要がある場合は相談受付や事業所との連携を行いながら、ケアに繋げていくよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から利用者や家族の不安や困り事等に耳を傾け、気軽に話してもらえる雰囲気作りを心掛けている。契約書や重要事項説明書の内容については管理者や主任から詳しい説明を行い、質問があった場合にはその都度理解が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームだよりや運営推進会議で日々の生活状況を家族に報告し、面会時や電話等でその都度直接家族の意見や要望を聞いている。玄関に設定している意見箱や家族アンケートで頂いた意見や要望を基にサービスやケアの向上に活かしている。	事業所では利用者一人ひとりの日常生活を綴ったお便りを写真同封で送っており、好評を得ている。また玄関での意見箱設置や、外部機関でのアンケート実施で利用者家族の意見収集に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや引継ぎの時に意見交換を行う機会を設けているほか、意見や提案があればその都度相談し、常に相談できる環境や雰囲気作りを心掛けている。	定例の会議や日々の申し送り等で職員の意見や提案は受け止めており、個人的な相談についてもいつでもできるよう、環境作りにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断と職員の体調の変化への気遣いを常にしている。勤務状況や労働時間、有休の取得も職員の希望に添った形で整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加機会を増やし、参加希望に合わせて勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体でユマニチュード研修を行っており、関連事業所との関わりを持ちながら共に質の高いケアの実践に繋げている。研修や会議の参加が増え、同業者との交流の機会も増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会・面談をして本人と話し合う時間を設け、困り事や本人の望む生活を聞き取っている。一緒に過ごす時間や話しやすい雰囲気を大切にし信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の身体的・精神的状況の把握と家族の困り事や不安に思っている事を傾聴し、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意思を尊重して、家族と相談した上でサービス利用に努めている。 現在必要としている支援に合う施設サービスがある場合は提案・紹介し、情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立した生活が送れるよう個々のできることを見出して入居者の意思を尊重しながら役割としてやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、身の周りの必要な物を購入して届けて頂いたり、受診対応等は可能な限り協力を得て交流の機会を作っている。入浴介助も一部の家族には協力してもらっている。 電話で状況報告を行い、本人・家族の考えを尊重しながら、家族との繋がりが途絶えないよう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人や知人の面会は多く馴染みのある人と一緒に過ごす時間を大切にする為、面会・外食・外出は自由に行っている。希望があれば宿泊の受入れも行っており、家族の協力を得ながら支援に努めている。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、墓参りや初詣といった場には家族と協力しあい支援しており、昔馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファの座る位置や食事の席はトラブルにならないよう配慮しており、状況に応じて職員が間に入り対応している。新しい入居者が入った時は会話ができそうな入居者と過ごせるよう配慮し、ホールで周りの入居者と関わりが持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や転居先との連携を取り合いながら、必要に応じて相談を受け付けて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の情報や普段の生活の様子、会話等から本人の思いを汲み取り、本人の意思に基づいた支援ができるよう努めている。	毎日の支援の中から、本人の好き嫌いや望む思いを把握し、職員全員で共有している。最大限本人の意向に沿えるよう努めている。	利用者本位への取り組みに敬意を表したい。今後は本人の最終段階への思いや希望を聞き取り、かつ定期的に記録し、より意向に基づいた支援になるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努	生活歴を家族・本人・ケアマネージャーから聞き取り、資料にまとめて職員で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化や生活のリズム等、個人の記録や日誌を活用し、一人ひとりに合った対応ができるよう職員で共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、変化に応じてケアプランの変更や見直しを行っている。本人や家族から意見・要望を伺いながら、職員間の情報も組み込みケアプランに反映している。	モニタリングは定期的に行い、全職員でカンファレンスを実施、家族や医療面を考慮し、計画作成者が作成している。短期目標について、介護日誌で進捗度を把握して現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には食事・水分・排泄・睡眠等の記録が一目でわかるよう1枚に収められた用紙を活用し、ケアの実践結果を評価する項目も設けている。朝・夕の申し送りの他に日誌や引継ぎノートも活用し情報共有を行い、統一したサービスの提供が行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応えるため状況把握に努め、一人ひとりに合った柔軟な支援方法を考え取り組んでいる。飼い猫の受入れを行い、一緒に生活することで家族や本人の不安の軽減に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店を外食レクや出前注文で利用し、楽しい時間を過ごして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診対応は家族に協力を得ていて、希望があれば通院支援を行っている。日頃の状態を記録し、急変時には協力医療機関と連携を図り医師に報告相談ができるよう迅速な対応に努めている。	基本的には今までのかかりつけ医を尊重し、本人や家族の希望に沿っている。また隣接する母体病院をかかりつけ医にする場合も多く、母体の医師は往診の枠を超え、日に何度も頻繁に顔を見せ、利用者の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面や精神面で少しでも変化や気付きがあれば、その都度報告相談している。内服の変更があった場合には副作用等の情報も含め、情報の共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携を図り、入退院に必要な情報の共有に努めている。退院後のスムーズな入所支援に繋がられるよう地域連携室との連絡相談も密に行うよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	カンファレンスを行い介護方針の統一を心掛け、重度化した場合は家族の意向を聞き、体調に合った施設の紹介等に努めている。	終末期の介護については、利用者や家族の意向を尊重しながら何が適切か、どれが適正なのかを医療的側面を勘案しながら判断し、最良の選択を家族と共に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で救命講習を受け、緊急時に備えてAEDの使用方や通報連絡の訓練を行っている。オンコール体制と緊急連絡網も整備し、すぐに連絡を取り合い初期対応ができるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき年に2回の防火訓練で実践力を身に付けている。オンコール体制と緊急連絡網も整備し、全職員で協力体制を築いている。防災グッズや非常食の備えもあり、定期的に非常食の賞味期限を確認し、補充整備もしている。	年に2回の災害避難訓練を行い、備蓄品を含め不意の災害に備えている。避難先は母体病院としているが、独自の備えとして冬季用暖房機も整え、発電機も近々用意する方向で動いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレにカーテンを付けることでプライバシーの配慮に努めている。本人の意向を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けの内容やトーン、話すスピード、表情に気を配り対応している。	プライバシー確保のため不可欠なトイレでの遮断カーテンも各ブースに用意され、繊細な配慮で各人の個性が尊重されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が言えるまでゆっくりと時間をかけて傾聴し、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムや過ごし方等は強制せずに本人の意思やペースに合わせて対応し、自由な生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は家族や本人の意向を聞いて希望があれば定期的に来てくれる理美容のサービスを利用している。衣服は本人の好みに合わせて選んでいただいて、化粧品も自由に選んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳等を一緒に行い、食事の準備を生活リハビリとして取り入れている。自分で作る楽しさや作った物を食べたり食べてもらえる喜びを感じてもらえるよう漬物作りや下ごしらえ等、実際に調理に携わってもらっている。	献立は1か月分作成しているが、行事食や誕生日の食事会、また野菜や果実の差し入れもあり、出前の要望にも応えながら、職員も同席同食で楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や糖分制限のある方は個別に把握し対応している。お粥や刻み食等、一人ひとりに合わせた食事形態や量に変えて対応している。食事量や水分量は記録で確認し、水分量が少ない場合は個別に調整を行ったり、家族に好みの飲み物を提供していただき、支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや洗浄剤を使った義歯の洗浄等を行い、口腔衛生に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔が長い場合は声掛けし、トイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレの使用で自立排泄の支援に繋げている。一人ひとりに合ったパッドやリハビリパンツを選定し、トイレ介助の際にパッド交換等の支援も行っている。	個人個人の特性に応じながら、衛生機材を検討し、また時間での誘導も行き、トイレでの排泄が自然となるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔や便の状態・形状・量を把握し、下剤やセンナ茶を使い、排便コントロールを行っている。体操や運動をすすめてスムーズな排便に繋がるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴できるよう調整し、本人の体調や気分に合わせて入るタイミングを決め、シャワー浴や足浴等の支援も行っている。	お風呂は毎日お湯を入れて準備している。また温泉を使用しているが、利用者が活用するには天然温泉水では塩分反応が強すぎるため、各人に即した水との配分で、また利用者の都度お湯を入れ替え、適切な入浴を楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床・起床の時間や午睡等は個々の習慣に合わせて自由にしており、眠れない方がいればお話を聞いたり一緒に過ごすことで寄り添うケアに繋げている。夜間は排泄より睡眠を優先して吸収量の多いパッド等を使い、十分な睡眠確保ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時はその都度手渡しして一緒に薬の確認を行いながら服薬の支援に努めている。薬の目的や副作用についてまとめたファイルがあり、服薬の変更があればその都度確認し、職員間での共有に努めている。服用後の変化や転倒等に注意を払い、気付いたことがあればその都度看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植物や金魚の世話、馴染みのある家事仕事等で生活の中に役割を見つけ、達成感やお礼を伝えることで喜びを感じてもらえるよう支援している。レクやリハビリ体操で気分転換をしてもらったり、好きな歌番組やスポーツ番組を見て会話と一緒に過ごす時間を楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調には十分配慮し、外出・外食行事を計画したり散歩を行う等、戸外に出る機会を設けている。家族と一緒に外出・外食を楽しまれている方もいて、家族や本人の希望に添えるよう支援している。	季節の外出、桜等の花見や紅葉狩りなど、レクで外出や外食目的などで外気浴に努め、近所や敷地内散歩も多用し、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心に繋がる人は家族と話し合い、本人の状況に合わせてながら家族と職員でお金の所持を把握し金銭トラブルが起こらないよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの希望があれば、家族に相談して事務所の電話を利用していただいたり家族からの電話も取り次ぐ支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは全てバリアフリーとなっておりホールには季節に合わせた装飾品や写真の掲示を行っている。光や温度・湿度の管理にも気を配り、清潔感を保ち過ごしやすい空間の提供に努めている。浴室やトイレはホールから見えづらい場所にあり羞恥心に考慮されている。	敷地を十分に活用したゆったりとした、寛げる事を重視した造りで、食堂と居間は広くかつ明るく、温度も湿度も適切に管理されている。特筆されるのは、建物の隅々まで磨き上げられ、清潔で衛生的な状態が開設以来維持されており、この職員の努力が居心地の良い介護として実践に活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの他に窓際に置かれた一人掛けの椅子や畳のスペースがあり、それぞれが好きな場所で自由に過ごしていただける工夫がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのある家具を持ち込んでいただき、備え付けの家具も家族や本人の希望に合わせて配置して居心地良く過ごしていただけるよう努めている。	居室には介護用のベットやたんす類も事業所が用意設置しており、他にも昔からの使い慣れた馴染みの小物等が置かれ、過ごしやすい自分の部屋となる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで整備された館内は、手すり・クッションフロア・センサーによる自動点灯で安全を確保し、歩行に不安がある方には歩行車を使用してもらい自立した生活が送れるよう支援している。居室やトイレに目印を付けて迷わない工夫も行っている。		